令和　6 年度　　宍粟市　　立　　河東小　　学校

不登校対策支援プラン

更新日　4　月　1　日

プランの策定にあたって

県内において不登校児童生徒数は増加傾向にある中、不登校対策では、対象や課題性に基づいた取組が求められています。全ての児童生徒を対象とした取組や不登校の予兆が見られる児童生徒への支援、欠席が継続している児童生徒への支援を組織的かつ計画的に行うことが必要です。

本校では、実態を把握し、以下の目標や取組を設定し、教職員が一丸となり対策を進めることで、誰一人取り残すことのない、持続可能な不登校対策や支援を行います。

不登校対策の目標

1　多様性や個性を認め伸ばし、児童が自己有用感や自己肯定感を高めながら、安心して通い続けることができる学校づくりをすすめる。

2　児童、保護者の状況を的確に把握し、多様性や個性に応じた支援方針を定め、どこにも支援につながっていない児童がいないようにする。

不登校対策における重層的支援構造

（参考：生徒指導提要R4.12）

困難課題対応
不登校児童生徒対象
- 不登校児童生徒へのｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞや別室登校
- 保護者や関係機関と連携した支援（拡大ケース会議の実施）

早期発見対応
予兆のある生徒対象
- 休み始めの段階でのｱｾｽﾒﾝﾄ（校内ｹｰｽ会議）
- 組織的対応、保護者と連携した支援

未然防止教育
全ての児童生徒対象
不登校対策を意識する
- 児童生徒がSOSを出す力を獲得
- 教職員が児童生徒の変化に気付きSOSを受けとめる力の向上

発達支持
全ての児童生徒対象
不登校を意識しない
- 安全・安心な居場所となるための「魅力ある学校づくり」と「分かりやすい授業」の工夫
- 教育相談体制の充実

不登校対策チーム構成

管理職、不登校担当、生活指導推進部（生活指導）担当、学年代表、養護教諭、ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ（SC）、ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ（SSW）、該当担任等

不登校児童生徒支援関係機関等

教育支援センター「さつき学級」、青少年育成センター、こども未来課、地域学校協働活動、学校評議員会、スポーツクラブ21、子ども食堂

４つの層での取組　等

発達支持
- 一人一人を認める肯定的な評価は機会を逃さず行い、自己肯定感や自己有用感を高める。
- 対話と活動を重視し、ぶれずに関わり続け、将来を見据えた粘り強い段階的指導・支援を行う。

未然防止教育
- 「分かる授業」の工夫、すべての子どもたちが存在感を得られる「居場所づくり」、互いを認め合う場や機会を設定する「絆づくり」などで、児童が登校したくなる魅力ある学校づくりをする。
- 家庭訪問は、組織的・計画的に行う（休むことが自分を見つめなおす等の積極的な意味を持つことがある一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益や社会的自立へのリスクがあることも伝える）。

早期発見対応
- 休み始めは、まず働きかけをして反応を確認する。そして、全職員での共通理解のもと、「チーム学校」の体制で丁寧な対応に努める。
- 休み時間の雑談の中などで子どもの様子に目を配ったり、教職員と児童の間で日常行われている交流活動を活用して悩みを把握したり、個人面談や家庭訪問の機会を活用したりして小さな変化に気づく。

困難課題対応
- 部分復帰から完全復帰へ少しずつでも認め、成功体験の積み重ねで居場所づくりをすすめていく。
- 相談室、保健室などの別室で安心して過ごせる場所を確保する。